



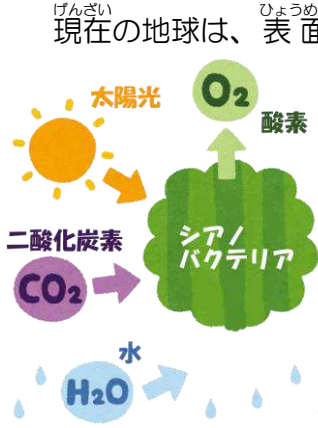
ジオスペース館だより

たいようけい わくせい
【太陽系の惑星 その5】

★「地球」水と生命の惑星 ～海におおわれた青い星～



わたしが住む「地球」は、太陽から3番目に近い軌道を回る惑星です。他の惑星と違い、地上に住む私たちからは空の星として地球を見ることはできないので、16世紀にコペルニクスが地動説を唱え、ケプラーやガリレオによって地動説が補完されるまで、自分たちの住むこの世界が惑星の一つであるとは思っていませんでした。そのため、この星の名前は、ギリシャやローマの神話からではなく、ラテン語や英語を始め多くの言語で「人が立つ地面〈大地〉」を表す言葉で呼ばれています。「地球」という言葉は、江戸時代になって中国から日本へ伝わり、広く使われるようになりました。



現在の地球は、表面に水や酸素が豊富にあり、太陽からの距離もほどよいので暑すぎず寒すぎず、私たち人類をはじめ多種多様な生物の生存に適した環境がそろっています。しかし、生まれたばかりの地球は今とは全く違っていました。地球は今から約46億年前、太陽の形成後ほどなくして誕生しましたが、その頃の地球の表面には熱い溶けた岩石が広がり、水分による海は無く、大気も高温による水蒸気が主成分で酸素はありませんでした。その後1億年ほどかけてマグマが冷え、温度が下がり、水蒸気が大量の雨となって降り注いで海ができると、40億年前に海で原始生命が誕生します。32億年前には光合成をするシアノバクテリア(らん藻)が現れ、27億年前に大量発生したことで空気中に酸素が増え、今のような大気になりました。水や大気は、地球の適度な「重力」と大気の層(大気圏)や磁気圏により、太陽風で吹き飛ばされないように守られています。また、大気圏や磁気圏は、宇宙からやってくる有害な紫外線や放射線を通さず、生物を守るバリアーの役目も果たしています。現在のところ、このように生命の存在に適した環境を持ち、実際に生命の存在が確認された天体は、私たちの住むこの地球だけです。

★ 伝統的七夕を楽しもう!

もともと七夕の行事は、旧暦の7月7日に行なわれていましたが、現在の暦では7月7日は梅雨の最中で、星空はなかなか望めません。そこで、昔ながらの七夕の日に星空を楽しもうと、国立天文台などで2001年から広く報じられるようになったのが「伝統的七夕」です。今年は8月25日(土)に当たります。日が暮れて星が輝く頃には、天頂近くに織姫(こと座のベガ)、少し南東に彦星(わし座のアルタイル)が見つかります。ぜひ、七夕の星空を楽しんでください。

★ 季節の星空探訪

★ 火星人はいるか? ～10月6日火星準大接近～

講師：浅田英夫氏(天文研究家)

日時：9月19日(土) 15:00

定員：50人(先着順)

申込：8月22日(土)から、中央図書館2階事務室で参加券を販売

会場：ジオスペース館プラネタリウム

費用：300円



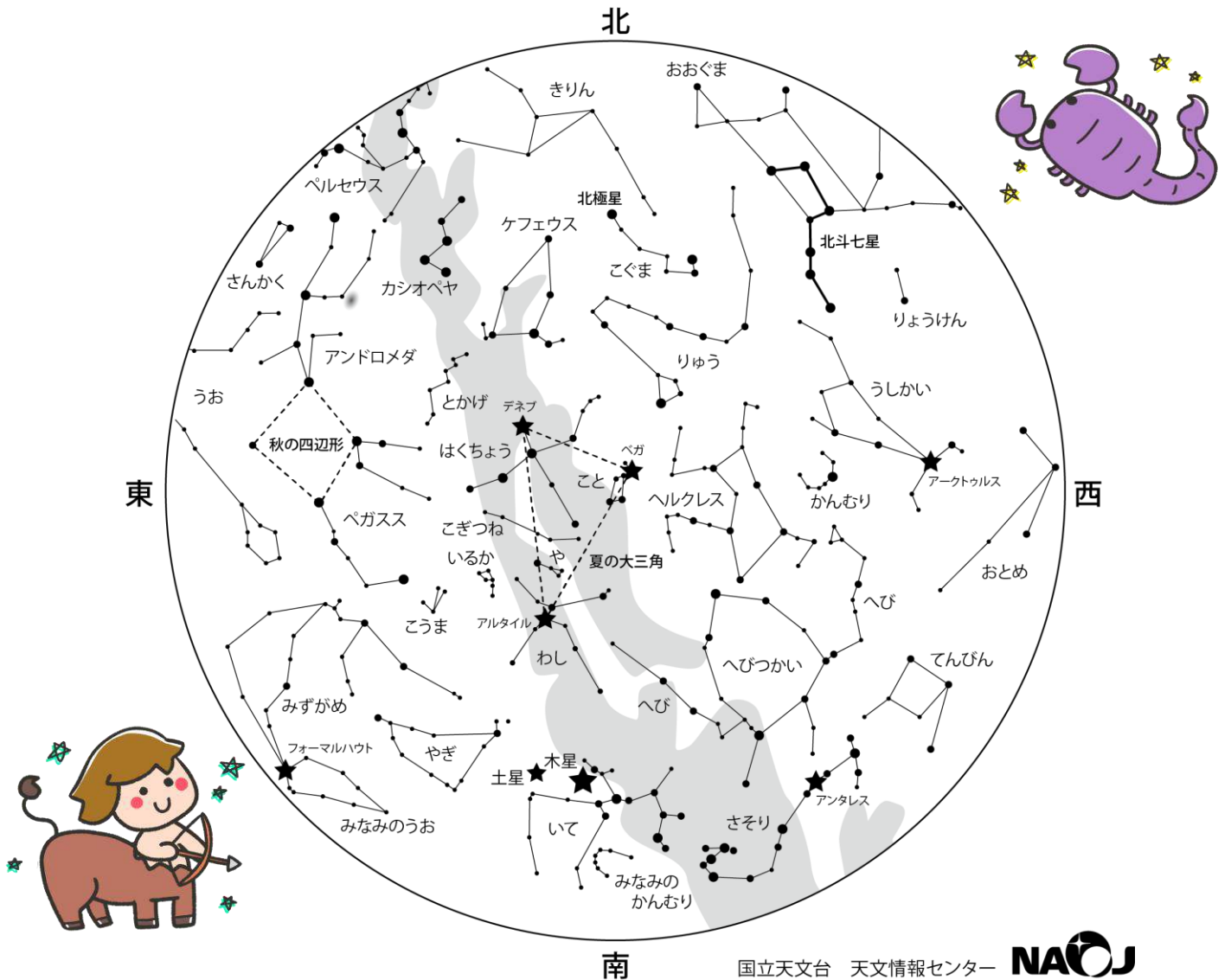
★ 8月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 8/17(月)、19(水)、24(月)、31(月)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。



8月下旬午後9時頃の星空



国立天文台 天文情報センター **NAOJ**

★ 8月下旬の主な天文現象

16日(日) 細い月と金星が接近 (未明)	25日(火) 伝統的七夕
18日(火) はくちょう座 κ 流星群が極大	26日(水) 上弦
19日(水) 新月	27日(木) 準惑星ケレスが地球と最接近
23日(日) 処暑	29日(土) 月が土星・木星に接近

★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ8/15~31) ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 8月24日(月) [見やすさ ◎]	4:35 南西	~	4:42 北東
◇ 8月25日(火) [見やすさ ◎]	3:50 南	~	3:54 東北東
◇ 8月26日(水) [見やすさ ◎]	4:37 西	~	4:43 北北東
◇ 8月27日(木) [見やすさ ◎]	3:52 天頂(西)	~	3:56 北東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。